

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	保育課長 栗原 章郎		
こども-12	実施事業	特定地域型保育支援事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	保育課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	子ども・子育て支援法に基づく確認を受けた家庭的保育事業者、小規模保育事業者等(地域型保育事業者)を利用する就学前児童
意図	市内在住の児童が利用している地域型保育事業者に対し給付を行い、事業運営の健全化を図るとともに、就学前児童の保育を行うため。
効果	地域型保育事業者を利用する児童の処遇向上及び事業運営の健全化等を図るとともに、待機児童対策に取り組むことができる。

2 平成29年度に実施した事業の概要

特定地域型保育事業者に対し、地域型保育給付費を支給した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備 考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯		・各年3月31日(住民基本台帳) ・対象者数=各年4月1日地域型保育事業利用児童数
事業の対象者数	35人		51人		50人			
運営資源状況	決算値(千円)	111,479	177,315		当初予算(千円)	158,459		
	国県支出金	52,941	127,143		国県支出金	110,116		
	地方債				地方債			
	その他	521	799		その他	766		
	一般財源	58,017	49,373		一般財源	47,577		
	人員配置数	2.0	2.0		人員配置数	2.0		
	人件費(千円)	15,448	15,956		人件費(千円)	16,045		
事業運営	総事業費(千円)	126,927	193,271		総事業費(千円)	174,504		
	市民1人当りの経費(円)	718	1,095		市民1人当りの経費(円)	990		
	対象者1人当りの経費(円)	3,626,486	3,789,627		対象者1人当りの経費(円)	3,490,080		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-9. 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、協働はなじまない 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	今後も、待機児童解消のために地域型保育事業者に給付を行う必要があるが、事業者数は大きく変動しないことが見込まれるため。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	平成27年4月から子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、児童福祉法に基づく認可及び子ども・子育て支援法に基づく確認を受けた施設に対し、公定価格により積算される地域型保育給付費を扶助費として支給することとなったものであり、当該扶助費の支給により地域型保育事業者の事業運営の健全化を図り、もって待機児童の減少に寄与することから今後も継続が必要がある。
-------------------	---

平成29年度事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	地域型保育事業が0歳から2歳児の低年齢児を保育する事業であるため、進級した児童が継続して保育施設を利用できるよう利用希望施設との調整が必要となる。
課題解決のために行った平成29年度の取組	地域型保育事業から連携保育施設等への保育を必要とする児童の継続利用に係る調整を行った。 <input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	引き続き、地域型保育事業を利用している保育を必要とする児童が、継続して保育施設を利用できるよう調整を図っている。

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	待機児童数(平成29年4月1日現在)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	三浦市	葉山町	横浜市	川崎市	横須賀市
他市実績	47人	148人	18人	32人	0人	47人	2人	0人	12人

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	本事業は、保育所経営の健全化及び待機児童解消を目的としており、前者については定性的要素が強いため、後者で他市比較を行った。待機児童数は、その地域の様々な要因により形成されるもので、数値のみをもって単純に比較できるものではないが、結果としては三浦市、川崎市で待機児童解消は達成されたものの、いまだ待機児童は多く発生しており、更なる待機児童対策を要する。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		平成30年度より待機児童の算出方法が変わり、潜在的待機児童が待機児童としてカウントされることとなったため、目標値の下方修正を行っている。
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	5	3	1	0	30		15		
	実績値	55	50	44	47	93				
達成率	9.1%	9.1%	2.3%	0.0%	32.3%					

指標の内容	入所児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		待機児童数から算出した目標値に向け、施設整備を進めており、入所児童数の目標は概ね達成しているが、それを上回る新たな保育希望が発生するため、待機児童の目標値達成には至っていない。
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	-	2,578	2,499	2,411	2,791		2,825		
	実績値	2,241	2,404	2,434	2,438	2,535				
達成率	-	93.3%	97.4%	101.1%	90.8%					

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	保育を必要とするすべての就学前児童を保育することができるよう、施設整備等の子どもの受入枠拡大に向けた施策を推進する。
-----------------------	--